

世界に羽ばたく島原半島ジオパーク ⑥

島原半島ジオパーク推進連絡協議会 (☎ 65-5540)



テーマ：歴史・民話 ～昔話が伝える大地の恵み～

これまで5回にわたって、島原半島ジオパークの見どころを紹介してきました。今回は、民話の中に伝わるジオパークを紹介します。

山の三太郎

「むかしむかし、雲仙岳は、帯山と呼ばれる大きな火山でした。何度も大きな爆発をくり返して、そのたびにまっ赤に焼けた溶岩を吹き出すのです」というくだりではじまる「山の三太郎」は、雲仙火山の中でも過去数万年以降に形成された山（普賢岳、妙見岳、国見岳）の地形を「加戸ヶ淵」に住むおしゃべり好きなカッパにたとえたこつけない昔話です。私たちの先祖には、近接した3つの山が、仲の良い友達同士に見えたのかもしれないですね。

みそ五郎やん

「昔むかし、西有家で一番高い高岩山に大きな男が住んでおった。この大男、人が良く、ちから持ちでだれやかれやから好かれておったそうな」。

毎年11月の初旬に、南島原市で開催される大きなお祭りの名前にもなっている「みそ五郎やん」は、雲仙火山の中でも古い溶岩ドームである高岩山付近の地形や、有明海に浮かぶ湯島、



島原半島の南部に見られる赤い土が登場する物語です。島原半島の自然が大好きな、気の優しい力持ちの大男は、昔も今も私たちに愛されています。

竜女おすわ

「そのむかしむかし、島原の古城下に、杏庵という若い医者がいまして」ではじまるこのお話。諏訪の池の近くでいじめられていた大きな白蛇を助けた医者が不思議な美女と出会うこの物語は、約200年前に起こった寛政の噴火をきっかけに作られた昔話です。

島原半島ジオパーク キャラクター決定!

昨年末から募集を行っていた「島原半島ジオパークキャラクター」の最優秀賞1点と優秀賞2点が決まりました。応募総数205点の作品に対し、厳正に審査を行った結果、最優秀賞は新潟県燕市在住の信貴正明さんの作品、優秀賞は、大阪市在住の前田昌克さん、と大阪市在住の塩崎エイイチさんの作品にそれぞれ決定いたしました。

今後、島原半島ジオパークのロゴマークとともに、島原半島ジオパークをPRしていきますので、よろしくお願いいたします。



最優秀賞
信貴正明さんの作品

寛政の噴火のときには、「竜女おすわ」のほかにもたくさん昔話が作られ、山の噴火の様子や当時の災害の状況を今に伝えていきます。

島原半島の美しい自然や大地の恵みは、多くの唄にも歌われています。普賢岳、国見岳、妙見岳の山並みの美しさを歌った「島原木挽き唄」、豊富な海の幸を採る漁の情景や、小浜温泉が登場する「おなよい節（島原バラ節）」などの民謡からは、人々が大地の恵みに感謝し、尊ぶ様子が伝わってきます。

このように、私たちの周りにはジオの恵みがあふれています。先人たちはそのかけがえのない恵みや感謝の気持ちを、数多くの民話や民謡に変えて私たちに伝えてくれているのです。これらに触れ、今一度、身の回りのジオの恵みを再発見してみてくださいいかがでしょうか。

今回は、4月10日から15日まで、マレーシアのランカウイ島において開催された「第4回ジオパーク国際ユネスコ会議」の様子を報告します。お楽しみに。